

[illegible]

① 一般共通事項 へ 続き へ	14 発生材の処理等 (1.3.12)	(1) マニフェストシステムを採用し、適正な収集、運搬及び処分を行う。 <table><tr><td></td><td>発生材の種類</td></tr><tr><td>発注者に引き渡すもの</td><td></td></tr><tr><td>特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法</td><td></td></tr><tr><td>現場において再利用を図るもの</td><td></td></tr></table> (2) 本工事に発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係る税(沖縄県産業廃棄物税)が課税されるので、適正に処理すること。(3) 受注者は、工事着手前に「建設副産物情報交換システム」(COBRIS)により作成した、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督員に提出しなければならない。また、受注者は、その計画書に使い建設副産物が適切に処理されたことを確認し、工事完成時に「建設副産物情報交換システム」(COBRIS)により作成した、「再資源化報告書」、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督員に提出しなければならない。(4) 受注者は、工事で発生した建設廃棄物について、ゆいける材の認定を受けた施設又はゆいける材の認定を受けていないが、再資源化後にゆいける材製造業者へ出荷している施設へ搬出すること。ただし、島内に当該施設がない場合はこの限りではない。(5) 本工事における再資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、前に掲げる施設のうち、受入条件のうちから運搬費と処分費(平日受入費用)の合計が最も経済的になるものを見当ている。したがって、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用の変更は行わない。(6) アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水及び粉体の取扱基準について ア 舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する濁水及び粉体(以下、廃棄物という。))については、廃棄物吸引機を有する切断機械等により回収するものとする。回収された廃棄物については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。 「適正に処理」とするとは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者(請負業者)が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報(成分性状等)を処理業者に提供することが必要である。なお、工事に際して特別な混入物が無ければ、下記HPに掲載されている「濁水及び粉体の分析結果」を用いても差し支えない。 http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyos/seibi/sangyo/asufaruto.html なお、受注者は、廃棄物の処理に係る産業廃棄物管理票(マニフェスト)について、監督員から請求があった場合は提示しなければならない。 イ 発生する濁水(汚濁)に關しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について(通知)平成24年3月28日付け土技第1257号)」に基づき、適正に処理すること。 ウ 発生する粉体に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する廃棄物の取扱について(通知)平成25年1月17日付け土技第942号)」に基づき、適正に処理すること。		発生材の種類	発注者に引き渡すもの		特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法		現場において再利用を図るもの		16 主任技術者・監理技術者・検査員 17 主任技術者等の資格 18 主任技術者又は監理技術者の業務 19 工事の保険等 20 ゆいける材について	(2) 主任技術者及び監理技術者の雇用関係について ア 建設業法第26条の規定により、工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者は、受注者と入札執行日より前に3か月以上の雇用関係が成立していなければならない。 イ 受注者は、着手届と共に工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者の雇用関係を証明する書類(監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれに準ずる資料等の写し)を提出しなければならない。 (1) 主任技術者及び監理技術者の資格については、入札公告、現場説明資料等による。なお、入札公告、現場説明資料等で示されていない場合、主任技術者等の資格は、以下による。 ・ 1級建築士、又は1級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの ・ 1級建築士、2級建築士、1級建築施工管理技士、又は2級建築施工管理技士のいずれかの資格を有するもの ア 監理技術者については、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。 イ 配置予定技術者については、入札開始日前に3か月以上の直接的かつ恒常的な雇用関係があること。 ウ 配置予定技術者の専任を要しない期間については、設計図書等で確認すること。 (2) 発注者へ資格を証明する資料を提出すること。 ※ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認める。この場合の要件は、現場説明書による。 ・ 本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける主任技術者又は監理技術者の配置を認めない。	24 化学物質の濃度測定 (1.7.10)	(1) 測定時期、測定対象室及び測定箇所数 <table><tr><th>測定対象室</th><th>測定箇所数</th><th>測定時期</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) 測定対象化学物質が濃度指針値を超えた濃度で検出された場合は、引渡は受けない。 ※完成図 ※保全に関する資料 (1) 本工事の完成時の提出図書は、「管轄工事における工事関係図書等に関する効率化実施要領(案)」による。 (2) 完成図面は、(表1.7.1)に次表を含むものとする。 <table><tr><th>種類</th><th>記入内容</th></tr><tr><td>詳細図</td><td>監督員との協議による。</td></tr></table> (3) 本工事は電子納品対象工事とする。 電子納品とは、調査、設計、工事などの各段階の最終成果を、各種データで納品することをいう。ここでいう電子データとは、各種電子納品要領・基準等(以下、「要領」)に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。 なお、書面における署名又は押印の取り扱いについては、別途監督員と協議するものとする。 (4) 工事完成図書は、「要領」に基づいた電子データとなっている(公財)沖縄県建設技術センターにて確認を受け、「電子納品確認登録証」の発行を受けること。 業務成果品(工事完成図書)は、電子媒体(CD-R等)で(正)1部提出すること。 「要領」で特に記載が無い項目については、監督員と協議の上、電子化のファイルフォーマットを決定すること。 なお、「紙」による提出物は、監督員と協議の上決定すること。 (5) 受注者は、完成通知書の添付書類として以下の書類及び電子データを監督員に提出しなければならない。 ア ゆいける利用状況報告書 イ ゆいける材出荷量証明書 ロ 建築物等の利用に関する説明書について ・ 「建築物等の利用に関する説明書」を作成する。作成の手引きは、国土交通省ホームページに掲載を参考にして、記載事項は監督員との協議により決定する。 (7) 受注者は、監督員より長期保全計画書の作成の指示があった場合、これを作成し監督員に提出しなければならない。なお、この計画書の内容等とは監督員との協議により決定する。 本工事では発注者から受注者に対し設計図CADデータを貸与する。なお、貸与されたCADデータを本工事ににおける施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。	測定対象室	測定箇所数	測定時期	備考					種類	記入内容	詳細図	監督員との協議による。	25 完成時の提出図書 (1.9.1) (1.9.2) (1.9.3)	3 環境対策について 4 足場その他 (2.2.1) (表2.2.1)	(1) 受注者は、本工事の施工にあたり、「沖縄県赤土等流出防止条例」、「水質汚濁防止法」及びその他環境保全に関する法令等を遵守し、その対策については工事着手前に現場状況の調査、検討を十分に行い、監督員の確認を得た上で施工すること。 (2) 赤土等流出防止対策を行う場合、その対策範囲は図示による。	5 既存部分の養生 (2.3.1)	6 仮設間仕切り (2.3.2)	7 監督員事務所 (2.4.1)	3 防水改修工事 1 改修工法の種類、種別及び工工程等 (3.1.4) (表3.1.1) (表3.1.2) (3.2.5) (3.2.6) (3.3.2) (3.3.3) (表3.3.3)～(表3.3.10) (3.3.5) (3.4.2) (3.4.3) (表3.4.1)～(表3.4.3) (3.5.2)～(3.5.4) (表3.5.1)～(表3.5.3) (3.6.3) (3.7.2) (3.7.8)	(1) 防水改修工法の種類等 <table><tr><th>工法の種類・種別</th><th>施工箇所</th><th>材料の種類及び厚さ</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) シーリング改修工法の種類等 <table><tr><th>工法の種類</th><th>施工箇所</th><th>試験等</th></tr><tr><td></td><td></td><td>※簡易接着性試験</td></tr></table> (3) 既存下地の補修箇所の形状、長さ等は、図示による。(A～) (4) 改修用ドレンを設ける場合：() (5) 防水層の種類：【 () 】 (6) その他の材料等 ・ 固定金具：(材質) (寸法) ・ 絶縁用シート：(材料) () ・ 断熱材：(材質) (厚さ) ・ 立上り部保護：(材料) (工法等) ・ 脱気装置：(種類) (設置数) ・ 仕上げ塗料：(種類) (使用量) ・ 平場の保護コンクリート、保護モルタル：(厚さ等) ()	工法の種類・種別	施工箇所	材料の種類及び厚さ	備考					工法の種類	施工箇所	試験等			※簡易接着性試験	2 とい (3.8.2) (3.8.3) (表3.8.1)	3 アルミニウム製笠木 (3.9.2)(表3.9.1) (3.9.3)	(1) といの材料等 <table><tr><th>材質</th><th>規格名称</th><th>材質</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (2) たてどい受金物の取付けは、図示による。 (1) 構成部材による種類： (2) アルミニウム製笠木本体の材料の表面処理の種別及び複合皮膜の種類は次による。 種別：【・ A-1 ・ B-1・ () (JIS H 8602)】 (3) 既存笠木撤去後の新規アルミニウム製笠木の下地補修の工法：押出し 形 (4) 固定金具の間隔及び固定方法は、図示による。 (1) 元請業者、施工業者、製造所の三者連署による保証書を監督員に提出する (2) 保証期間は、工事引渡し後【 年】間とする。ただし、アスファルト防水は【 年】間とする。	材質	規格名称	材質	備考					4 保証	5 その他	工事名称 沖縄コンベンションセンター二棟等改修工事(08) 工事年度 令和8年度 工事場所 沖縄県宜野湾市真志達4-3-1 図面名称 建築改修工事特記仕様書(その2) 発注機関 沖縄県文化観光スポーツ部 MICE推進課 縮 尺 NO SCALE 構 要 図面番号 A-02 検 印 管理建築士 設 計 製 図 設 計 資格者氏名 所 在 地 登録番号 所 在 地
		発生材の種類																																																												
発注者に引き渡すもの																																																														
特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法																																																														
現場において再利用を図るもの																																																														
測定対象室	測定箇所数	測定時期	備考																																																											
種類	記入内容																																																													
詳細図	監督員との協議による。																																																													
工法の種類・種別	施工箇所	材料の種類及び厚さ	備考																																																											
工法の種類	施工箇所	試験等																																																												
		※簡易接着性試験																																																												
材質	規格名称	材質	備考																																																											
② 原設工事	1 工事用水	構内既存の施設：【・利用不可 ・利用できる(・有償・無償)】	2 工事用電力	構内既存の施設：【・利用不可 ・利用できる(・有償・無償)】																																																										

4 外壁改修工事	1 外壁改修工法の種類等 (4.1.4)	(1) コンクリート打放し仕上げ外壁 (4.2.2)～(4.2.8) 改修の内容 改修工法の種類 使用する材料 特記事項 ひび割れ部改修 欠損部改修 ・自動低圧式エポキシ樹脂注入工法におけるエポキシ樹脂の注入量：注入口1箇所当たり【 】m ² ・手動式エポキシ樹脂注入工法における注入口間隔：【 】mm ・機械式エポキシ樹脂注入工法における注入口間隔：【 】mm (2) モルタル塗り仕上げ外壁 (4.3.2)～(4.3.16) 改修の内容 改修工法の種類 使用する材料 特記事項 ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修 目地改修 (3) タイル張り仕上げ外壁 改修の内容 改修工法の種類 使用する材料 特記事項 ひび割れ部改修 欠損部改修 浮き部改修 目地改修工法 (4) タイルの種類 施工箇所 形状・寸法 うわぐすり 吸水率 役物 色 備考 ・タイルの試験張り：【 ・行う ・行わない 】 ・タイルの見本焼き：【 ・行う ・行わない 】 ・外装タイル張り下地等の下地モルタルの接着性試験：【 】 (5) タイル張り工法 タイルの種類 大きさ 工法 張付け材料の種類、塗厚等 (6) 塗り仕上げ外壁 (4.5.2)～(4.5.6) 仕上塗材の種類 (呼び名) 種類 仕上りの形状 工法 下地処理の方法等 改修後の新規仕上げの種類： 既設資材の処理及び処分方法：	6 鋼製建具 (5.4.2) (表5.4.1) 7 鋼製軽量建具 (5.5.2) (5.5.3) 8 ステンレス製建具(5.6.2) (表5.2.1) (表5.4.1) 9 木製建具 (5.7.2) 10 建具用金物 (5.8.2) (5.8.3) (表5.8.1) 11 鍵 (5.8.4) 12 自動ドア開閉装置 (5.9.2)(表5.9.4) 13 シャッター (5.11.2)(5.12.2) (5.12.4) 14 オーバーヘッドドア (5.13.2) 15 ガラス (5.14.2)(5.14.4) (5.14.5) 16 その他 17 既存床の撤去等 (6.2.1) 2 木下地等 (6.5.1)(6.5.2) (表6.5.1) 6 内装改修工事	(1) 建具の性能等 施工箇所 気密性 水密性 耐風圧性 備考(材料等) (2) 特殊なドアセット等の適用及び等級 ドアセット等の種類 施工箇所 等級 備考 ・簡易気密型ドアセット (3) 鋼板の種類：【 ・ JIS G 3302 ・ JIS G 3317】 (1) 建具の性能等 種類 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み寸法 施工箇所 (2) 特殊なドアセット等の適用及び等級 ドアセット等の種類 施工箇所 等級 備考 ・簡易気密型ドアセット (3) ビニル被覆鋼板：【 ・使用する ・使用しない】 (4) カラー鋼板の適用：【 ・使用する ・使用しない】 (1) 建具の性能等 施工箇所 気密性 水密性 耐風圧性 備考(材料等) (2) 表面仕上げ：【※HL ・ バイブレーション ・ 鏡面 ・ 】 (1) かまち戸 かまちの樹種： 、鏡板の樹種： (2) ふすま 上張りの種類： 、縁の仕上げ： (1) 建具用金物の材質、形状及び寸法 形式 金物の種類 見え掛り部の材質 備考 (2) 建具用金物の取付け位置等は、図示による。 (1) マスターキー：【 ・製作する ・製作しない】 (2) 関連工事がある場合は、受注者間で協議し1つの鍵箱にまとめて納品する。 (1) 戸の開閉方法：【 ・ 引戸 ・ 開き戸 ・ 折戸】 (2) センサーの種類： (1) シャッターの種類：【 ・ 重量() ・ 軽量】 (2) 耐風圧強度 (3) 重量シャッターの場合のシャッターケース： 【 ・ 設ける ・ 設けない】 (4) スラットの形状： 【 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング型】 (1) 耐風圧性能の区分： (2) 開閉機能：【※バランス式 ・ チェーン式 ・ 電動式】 (3) 収納形式による区分： (1) ガラスの種類及び厚さ等 ガラスの種類 厚さ等 備考 (2) ガラス留め材 建具の種類 材種 (3) 熱線反射ガラスの映像調整： (4) ガラスブロックの材料及び工法 表面形状 呼び寸法 厚さ 壁用金属 補強材 色 金属製化粧カバー (5) ガラスブロック積みを用いる化粧目地モルタルの色： 既設資材の処理及び処分方法： 既存在床仕上材 工法 備考 (1) 木材(下地材)の含水率：※A種 ・ B種 木材(造作材)の含水率：※A種 ・ B種 (2) 製材 【 ・ 「製材の日本農林規格」による ・ 「製材の日本農林規格」以外による】 【 ・ 下地用針葉樹製材 造作用針葉樹製材 ・ 広葉樹製材 ・ 】 施工箇所 樹種 寸法 等級又は品質 含水率 防虫処理・難燃処理	(表6.5.2) (3) 造作用集成材 【 ・ 「集成材の日本農林規格」による ・ 「集成材の日本農林規格」以外による】 【 ・ 造作用集成材 ・ 化粧ばり造作用集成材 ・ 化粧ばり構造用集成材 ・ 】 施工箇所 樹種 寸法 等級又は品質 含水率 化粧薄板の厚さ (4) 造作用単板精磨材 【 ・ 「単板精磨材の日本農林規格」による ・ 「単板精磨材の日本農林規格」以外による】 施工箇所 厚さ 表面の品質 含水率 防虫処理 (5) 床張り用合板等【 ・ 普通合板 ・ 構造用合板】 施工箇所 樹種 厚さ品質、等級等 接着の程度 防虫・強度等 (6) パーティクルボード 施工箇所 厚さ 表裏面の状態 曲げ強さ 接着剤 難燃性 (7) 構造用パネル 施工箇所 厚さ 等級 (1) 施工箇所：「防除施工標準仕様書」(公益社団法人日本しろあり対策協会発行)Ⅰ 新築建築物ろあり予防処理標準仕様書 4 処理の箇所 に準ずることとし、建築物の外周処理 (2) 処理薬剤：(公社)日本しろあり対策協会又は(公社)日本木材保存協会の認定品とする。 (3) 処理方法：「防除施工標準仕様書」Ⅰ 新築建築物ろあり予防処理標準仕様書 3 処理の方法 に準ずる。また、土間コンクリートを打設する部分には、薬剤処理後、厚さ0.15mmポリエチレンフィルム敷きを行う。 木材処理(防蟻・防虫) (1) 施工箇所：合板、集成材等を除く全ての木材 (2) 処理方法：工場における加圧式とし、十分に乾燥を行う。ただし、現場における加工が生じた場合には、加工した箇所にに対し、現場にて木材保存剤を塗布する。 (3) 性能区分：性能区分は次による。ただし、監督員の指示を受けた部材については、その指示に従うものとする。 ア 造作材にラワン材等広葉樹を使用する場合は、JASの保存処理K1＋保存処理K3とする。 イ 構造材、下地材については、JASの保存処理K3とする。 5 防蟻処理、防虫処理の施工及び保証 (1) 公益社団法人日本しろあり対策協会の認定した「しろあり防除施工士」とする。ただし、工場における処理及び監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 (2) 元請業者と施工業者の連署による保証書を監督員に提出する。なお、期間は、処理施工後5年とする。 6 軽量鉄骨天井下地 (6.6.3)(6.6.4) (1) 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 野縁の間隔 備考 (2) 既存の埋込みインサート：【 ・ 使用する ・ 使用しない】 あと施工アンカーの引抜き試験： 【 ・ 行う(荷重 N程度) ・ 行わない 】 (4) 各補強の方法は、図示による。 7 ビニル床シート等 (6.8.2)(6.8.3) (1) ビニル床シートの材料及び工法 施工箇所 種類の記号 色柄 厚さ 熱溶接工法の適用 ・有り ・無し ・有り ・無し (2) ビニル床タイル、ゴム床タイル 施工箇所 種類(・形状) 厚さ等 (3) 特殊機能床材の適用： 【 ・ 帯電防止床シート又は床タイル・視覚障害者用床タイル・耐動荷重性床シート ・ 防滑性床シート又は床タイル】 施工箇所 種類(・形状) 厚さ等	8 カーペット敷き (6.9.3) (表6.9.1) (表6.9.2) (表6.9.2) (1) 帯電性の適用【 ・ 有り ・ 無し】 (2) 見切り、押さえ金物の材質、種類及び形状は図示による。 エポキシ樹脂系塗床の仕上げの種類： 施工箇所 工法 品名 備考(樹種、種別等) 10 フローリング張り 11 フローリングボードの特殊張り 12 畳敷き (6.12.2) 13 せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2)(6.13.3) (表6.13.5) (1) せっこうボード 規格名称 種類の記号 厚さ 施工箇所 目地工法の種類 (2) 合板の種類 合板の名称 施工箇所 その他の仕様 ※図示(A～)による。 ※合板の木材処理(防虫・防蟻)については、本特記仕様書第6章第3項及び第4項を適用する。 (3) 軽量鉄骨壁下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材： 【 ・ 】 品質及び防火性能：【 】 14 壁紙張り (6.14.2) 15 モルタル塗り (6.15.3)(6.15.6) 16 タイル張り (6.16.2)(6.16.3) (6.16.4) (表6.16.4) (1) 伸縮目地材の位置は、図示による。 (2) タイルの種類 施工箇所 形状・寸法 うわぐすり 吸水率 役物 色 備考 (3) タイルの試験張り：【 ・ 行う ・ 行わない】 (4) タイルの見本焼き：【 ・ 行う ・ 行わない】 (5) 壁タイル張りの工法等 タイルの種類 大きさ 工法 張付け材料の種類、塗厚等 17 セルフレベリング材塗り (6.17.3) (表6.17.1) 18 その他 既設資材の処理及び処分方法： 7 塗装改修工事 1 塗装の種類及び種別 (7.1.4)(7.2.2)～(7.13.2) 2 保証 3 その他 既設資材の処理及び処分方法：	工事名称 沖縄コンベンションセンター建具等改修工事(100) 工事年度 令和8年度 工事場所 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1 図面名称 建築改修工事特記仕様書(その3) 発注機関 沖縄県文化観光スポーツ部 MICET推進課 縮 尺 NO SCALE 摘 要 管理建築士 設 計 設 計 図 図面番号 A - O3 検 印 名 称 ー 資格者氏名 ー 登録番号 ー 所在地 ー
-------------	-------------------------	--	---	---	--	---	--

8 耐震改修工事

1 既存部分の撤去等

(1) 既存構造体の撤去範囲及びはつりだした鉄筋及び鉄骨の配置は、図示による。(8.21.2)(8.22.2)(8.23.2)(8.25.2)(8.24.4)(8.26.5)(8.27.2)

(2) 既存部分の目荒らしの程度：
(8.21.3)(8.22.3)(8.23.3)

(3) 既存部分の取り合い部分の割製補強筋の仕様：
(8.21.6)(8.22.7)(8.26.10)(8.27.6)

(8.4.2)(8.4.3)(8.3.8)

(8.2.2)

(8.2.4)

(8.1.2.4)

(8.1.3)(8.9.1)(表8.1.1)(表8.9.1)

(8.1.4)(表8.1.4)(8.7.8)

(8.2.1.8)

(8.2.8)(表8.2.7)

(8.1.7.4)(8.18.2)(8.18.3)

(8.2.1.4)

(8.2.9)(8.13.2)

(8.1.4.2)

2 材料及び品質

(8.2.1)

(8.3.4)(8.4.2)

(表8.3.4)

(8.4.2)(8.4.3)(8.3.8)

(8.2.2)

(8.2.4)

(8.1.2.4)

(8.1.3)(8.9.1)(表8.1.1)(表8.9.1)

(8.1.4)(表8.1.4)(8.7.8)

(8.2.1.8)

(8.2.8)(表8.2.7)

(8.1.7.4)(8.18.2)(8.18.3)

(8.2.1.4)

(8.2.9)(8.13.2)

(8.1.4.2)

(1) 鉄筋の種類等

ア 鉄筋の種類等

種類の種類 呼び名(mm) 備考

イ 鉄筋の継手

施工部位 継手の種類 備考(重ね継手の長さ等)

ウ 鉄筋の定着長さ

【※図示による。 ・ 】

エ 帯筋組立の形

施工箇所 配筋の方法 その他特記すべき事項

【 ・ (参一) による。 ・ 図示 】

オ 柱、梁の主筋の継手を同一箇所にはける場合は、応力集中やコンクリートの充填性等について十分検討し、監督員の承諾を受けて施工すること。

カ 機械式継手、溶接継手の場合のあきの寸法：

キ 圧接部の超音波探傷試験：【 ・ 行う ・ 行わない 】

ク 機械式継手の種類： ・ 図示 ・

(2) 溶接金網

網目の形状 寸法 鉄線の径 備考

(3) あと施工アンカー

ア あと施工アンカーの材料

種類 引張耐力 セン断耐力 径・埋込み深さ アンカー及び接合筋 確認強度

金属系

接着系

イ アンカー筋の新設壁内への定着長さ：【 ・ 】

ウ あと施工アンカーの性能確認試験：【 ・ 実施する ・ 実施しない 】

エ 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。

(4) コンクリート

ア コンクリートの種類等

気乾単位容積 重量による種類 類別等 設計基準強度 (F_c) 施工部位

・ 普通コンクリート ※Ⅰ類

・ 軽量コンクリート ・ Ⅱ類

・ 普通コンクリート ※Ⅰ類

・ 軽量コンクリート ・ Ⅱ類

・ 普通コンクリート ※Ⅰ類

・ 軽量コンクリート ・ Ⅱ類

イ 材齢28日圧縮強度の推定に用いる供試体は現場における「水中養生」とする。

ウ セメントの種類：

【※普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種 ・ 】

エ フライアッシュセメントB種の適用箇所：【 ・ 図示 ・ 】

オ 骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・ B

カ コンクリート打放し仕上げの種類等

仕上げの種類 打増し厚さ 施工部位 備考

キ 軽量コンクリート

施工部位 種類 気乾単位容積質量

・ 1種 ・ 2種

ク 水又は土に接する軽量コンクリートの使用 ・ 有り【使用箇所： ・ 図示 ・ 】

ケ コンクリートの打込み工法：【 ・ 流込み工法 ・ 圧入工法 】

(5) 鋼材

ア 鋼材の種類等

記号の種類 適用箇所 備考

形状及び寸法は、図示による。

イ 錆止め塗料の種類：【 ・ A種 ・ B種 】

ウ 耐火被覆の種類及び性能

種類 所要性能及び摘要箇所

エ 板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験：

(6) 高力ボルト

ア 高力ボルトの種類等

種類 径 縁端距離 間隔 ゲージ 備考

すべり係数試験： 【 ・ 実施する ・ 実施しない 】

試験の方法、試験片の摩擦面の処理：【 ・ 図示 ・ 】

(8.15.3)

(8.15.4)(8.15.7)(8.15.12)

(8.17.4)

(8.18.2)(8.18.3)

(8.20.5)

(8.2.6)

(8.2.13)

3 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事

(8.21.8)(8.21.10)(8.3.7)

4 鉄骨ブレース設置工事

(8.13.10)(8.22.9)

5 柱補強工事

(8.23.5)(8.23.6)(8.23.7)(8.24.7)

6 耐震スリット新設工事

(8.25.2)

7 免震・制震改修工事

(8.26.7)(8.26.10)(8.26.13)(8.27.4)(8.27.6)(8.27.8)(8.27.7)(8.27.4)

(8.26.16)(8.27.9)(8.26.15)

8 既存杭の撤去等

(8.28.2)

9 その他

既設資材の処理及び処分方法：

(1) 溶接

ア 技能資格者の技能付加試験：【 ・ 行う ・ 行わない 】

イ 開先の形状等

開先の形状 エンドタブの有・無及び適用箇所 スカップの形状 溶接部の試験

ウ 錆止め塗料の種類：【 ・ A種 ・ B種 】

エ 耐火被覆の種類及び性能

種類 所要性能及び摘要箇所

オ 溶融亜鉛めっき高力ボルトを使用する場合の摩擦面の処理：【 ・ プラスト処理 ・ プラスト以外の特別な処理方法及びすべり耐力の確認方法： ・ 】

(8) モルタル及びグラウト材

ア モルタルの圧縮強度及びフロー値：

(9) 連続繊維補強材

材料 工法 引張り強度 ヤング係数 備考

ア 強度試験の実施：

【 ・ 引張強度試験 ・ 付着強度試験 (試験数量： ・) 】

(1) コンクリートの打込み及び仕上げ

打込み工法の種類 増設工事後の仕上げ 備考

(2) 壁の配筋及び開口部の補強は、図示による。

(1) 仮組：【 ・ 実施する ・ 実施しない 】

(2) ブレース設置後の仕上げは、図示による。

工法 補強後の仕上げ その他(打込み工法、面取りの大きさ等)

スリット 耐火材 遮音材

幅 深さ 使用箇所 仕様 使用箇所 仕様

(1) 支承材又は減震材

材質 種類 防錆処理 寸法許容差 設置後の仕上げ

(2) 性能確認試験の項目及び数量：【 ・ 】

(3) 製品検査

項目 内容 判定基準 検査頻度等

(4) 支承材の耐火被覆の適用：【 ・ 有り(仕様： ・) ・ なし(仕様： ・) 】

(5) 検査の項目及び数量：【 ・ 】

(6) エキスパンションジョイントの仕様及び工法は、図示による。

(1) 撤去範囲及び撤去方法：図示による。

(8.28.2)

既設資材の処理及び処分方法：

5 外断熱改修工事

(9.2.2)

(9.2.3)(9.2.4)

6 断熱・防露改修工事

7 屋上緑化改修工事

(9.4.2)(9.4.3)

8 透水性アスファルト舗装改修工事

(9.5.3)

(9.5.4)(9.5.5)(9.5.9)

10 その他

1 県産瓦葺

(1) 瓦は沖縄県産の赤瓦とする。

(2) 沖縄県技能評価認定制度に基づく琉球赤瓦施工技能評価試験の瓦葺き作業及び漆喰塗り作業に合格した者を、適用する作業中において次の条件で配置し自ら施工すると共に、他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。

【 ・ 1名以上配置 ・ 施工面積 m²につき、 級技能評価試験に合格した者を1名配置】

断熱材

種類 厚さ

外装材

種類 防火性能

備考

既存外壁仕上材撤去

下地面清掃

下地欠損部改修方法

通気層の有無・厚さ

工法

断熱材の種類

厚さ

芝等の種類

見切り材等

かん水装置

既存保護層等の撤去

※樹木の固定方法については、施工計画書に明記し、監督職員と協議すること。

(1) 既存舗装の撤去：

(2) 路床

盛土の材料 フィルター層材料・厚さ

路床安定処理

実施する試験

(3) ジオテキスタイルの適用及び品質：

(4) 路盤、舗装

路盤の厚さ 舗装の厚さ 開粒度アスファルト混合物抽出試験 備考

(5) 構成及び厚さ：【 ・ 図示による(A- ・) ・ ・ 】

工事名称

工事場所

発注機関

摘要

検印

沖縄コンベンションセンター一建具等改修工事(RB)

沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1

沖縄県文化観光スポーツ部 MICC推進課

管理建築士

設計

製図

名称

資格者氏名

登録番号

所在地

令和8年度

建築改修工事特記仕様書(その4)

縮尺

NO SCALE

図面番号

A-04

—

—

—

—

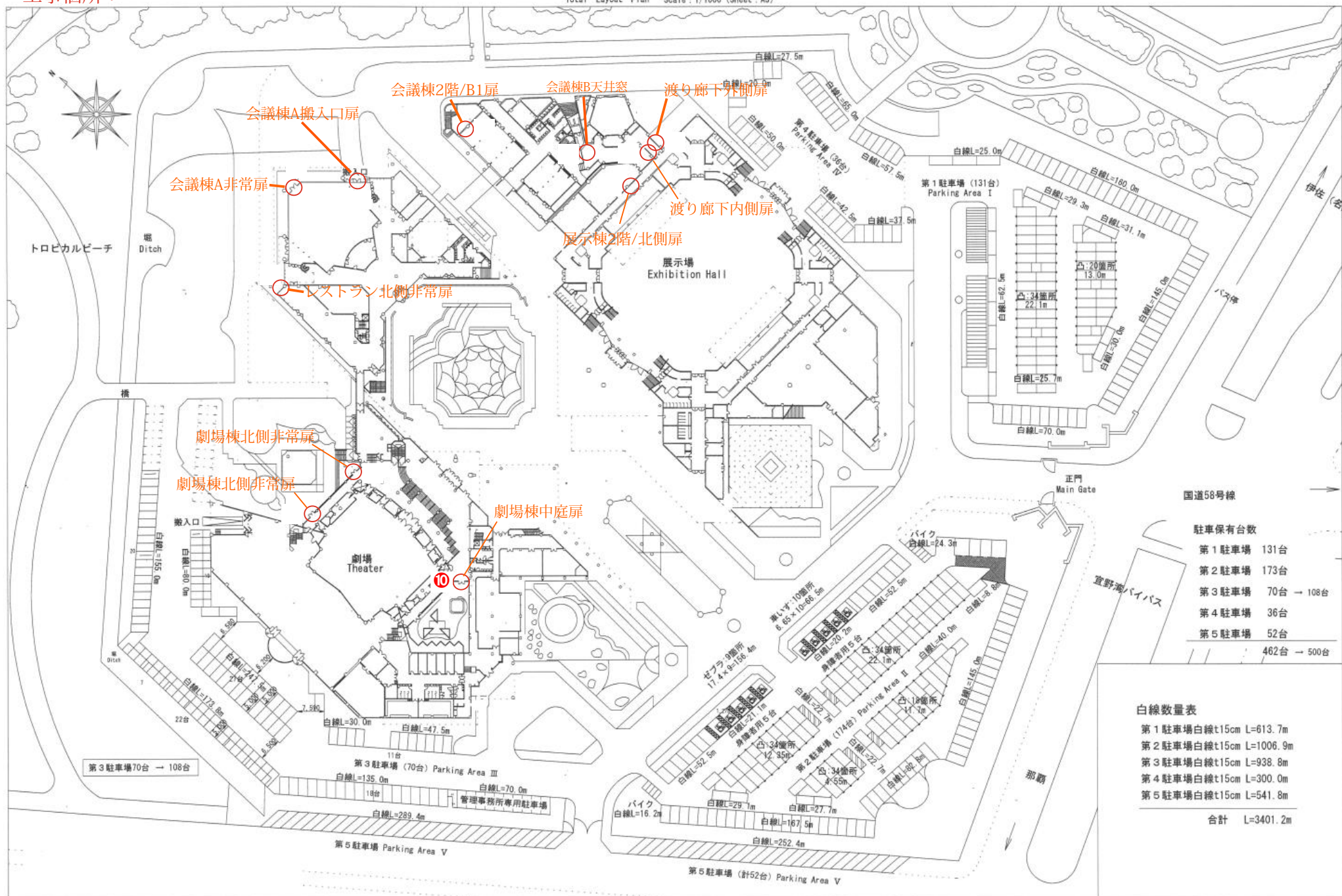
【沖縄コンベンションセンター建具等改修工事(R8) 改修箇所】

#	棟	改修箇所	図面箇所	備考
01	会議棟A	A 1 会議室扉開閉不良（3ヶ所）ヒンジ取替等改修	①②③	
02	渡り廊下	展示棟～会議棟B渡り通路扉開閉不良（2カ所）扉取替等改修	④⑤	
03	会議棟B	2 階B1会議室扉開閉不良 扉取替等改修	⑥	
04	会議棟B	トップライト破損（2カ所）ガラス及び枠取替等改修	⑦	
05	劇場棟	1 階扉開閉不良（北池側/2カ所）扉取替等改修	⑧⑨	
06	劇場棟	中庭扉不良 扉取替等改修	⑩	
07	レストラン	レストラン北側非常口扉不良 扉取替等改修	⑪	
08	展示棟	2 階客席北扉開閉不良 扉取替等改修	⑫	

沖縄コンベンションセンター建具等改修工事(R8)
工事箇所：

全体配置図

Total Layout Plan Scale: 1/1000 (Sheet: A3)



国道58号線

駐車保有台数

第1駐車場	131台
第2駐車場	173台
第3駐車場	70台 → 108台
第4駐車場	36台
第5駐車場	52台
	462台 → 500台

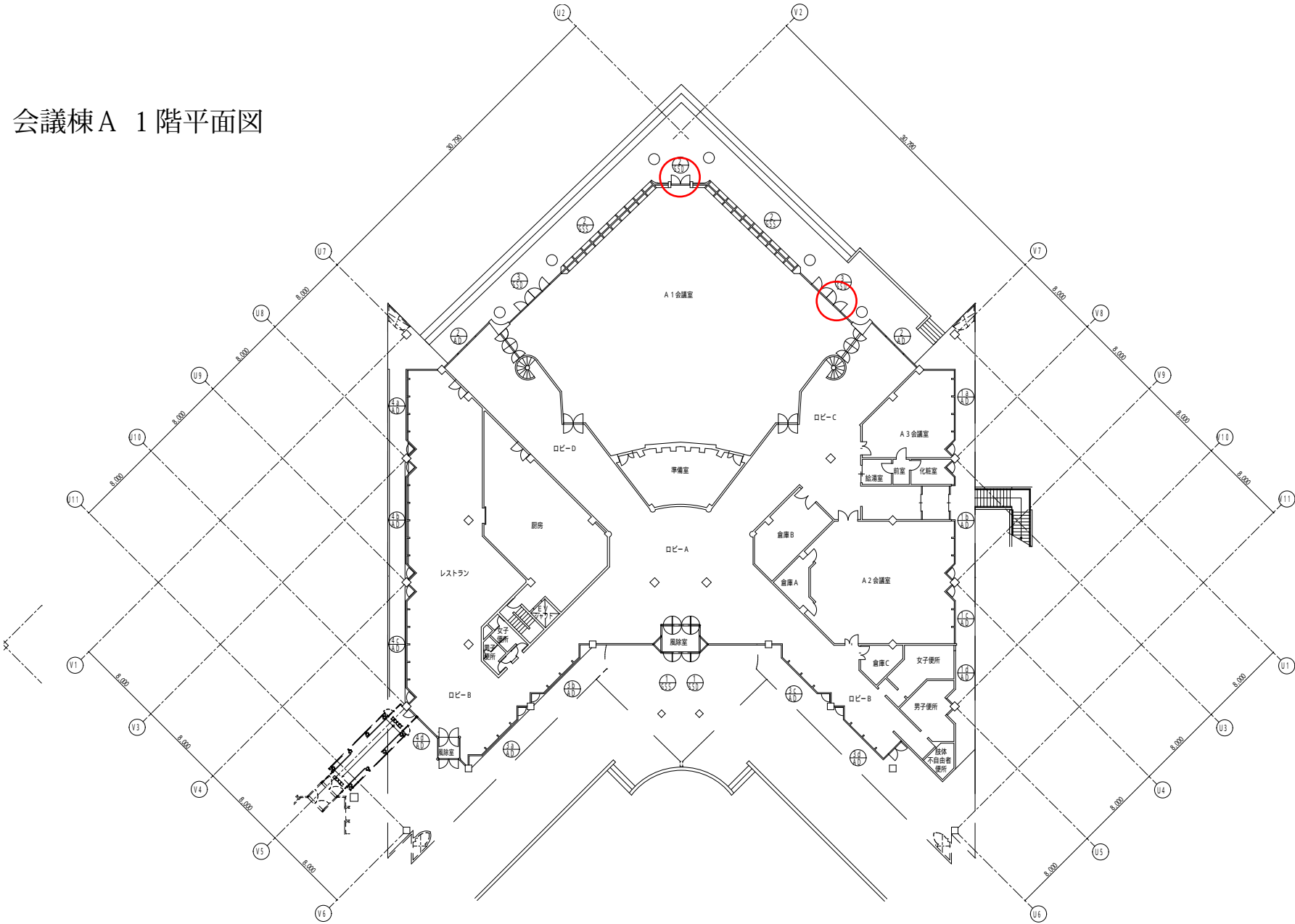
白線数量表

第1駐車場	白線t15cm L=613.7m
第2駐車場	白線t15cm L=1006.9m
第3駐車場	白線t15cm L=938.8m
第4駐車場	白線t15cm L=300.0m
第5駐車場	白線t15cm L=541.8m

合計 L=3401.2m

【#01】 会議棟A A1会議室扉開閉不良（3ヶ所）ヒンジ取替等改修

会議棟A 1階平面図



【#01】 会議棟A A1 会議室扉開閉不良（3ヶ所）ヒンジ取替等改修



写真No.		日付	
施設名	会議棟A		
場所	A1 会議室		
状況	扉開閉不良箇所		



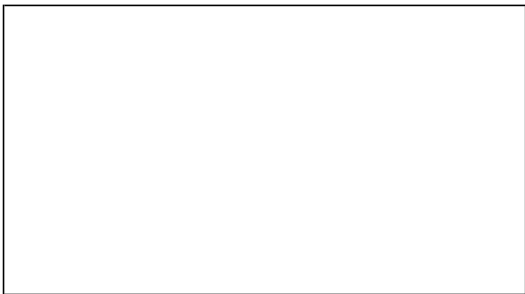
写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況	埋設クローザー錆膨張により 石タイルに擦れて開きづらくなっています		

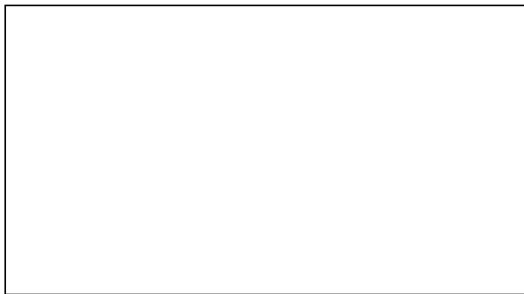


写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況	扉開閉不良箇所 クローザー不良により開きにくい状況です		





【#02】 渡り廊下 展示棟～会議棟B渡り通路扉開閉不良（2カ所）扉取替等改修



【#02】 渡り廊下 展示棟～会議棟B渡り通路扉開閉不良（2カ所） 扉取替等改修



写真No.		日付	
施設名	会議棟B棟		
場所	渡り廊下		
状況	中庭側扉 開閉不良 閉まりきらない		



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真No.		日付	
施設名	会議棟B棟		
場所	渡り廊下		
状況	非常扉口側扉 開閉不良 閉まりきらない		



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況	ガラス窓もひび割れて危険な状態です		



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			

【#03】 会議棟B 2階B1会議室扉開閉不良 扉取替等改修



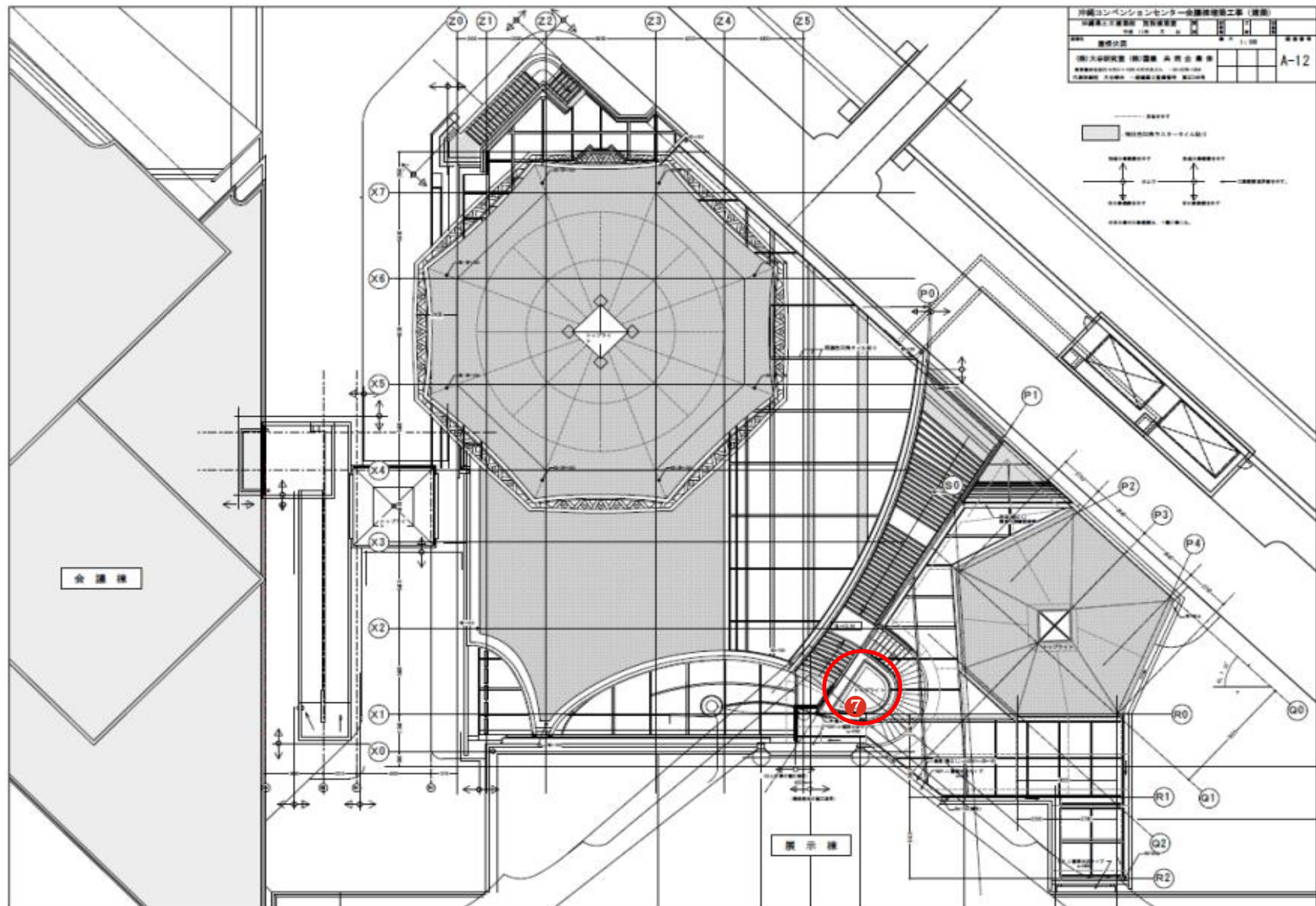
【#03】 会議棟B 2階B1会議室扉開閉不良 扉取替等改修



写真No.	1048	日付	2024年3月19日
施設名	会議棟B		
場所	2階		
状況	会議場B1の屋外通用口扉のフランス落とし部分不良により開閉不可状態です。 ※避難経路にもなる為、修繕が必要です。		

写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			

【#04】 会議棟B トップライト破損 (2カ所) ガラス及び枠取替等改修



【#04】 会議棟B トップライト破損 (2ヵ所) ガラス及び枠取替等改修



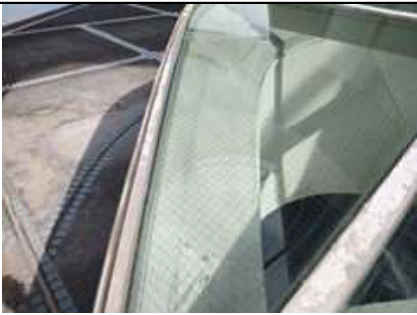
写真No.		日付	
施設名	会議棟B		
場所	天井窓（ロビー3）		
	大雨時にB棟トップライト部から建物内への雨漏りが発生し都度、設備員にて処置対応しており専門業者の修繕が必要です。		



状況	2箇所のひび割れガラス交換及び枠コーキングの打替えまた、トップライト下部の建物内部コンクリートひび割れ補修が望まれます。		





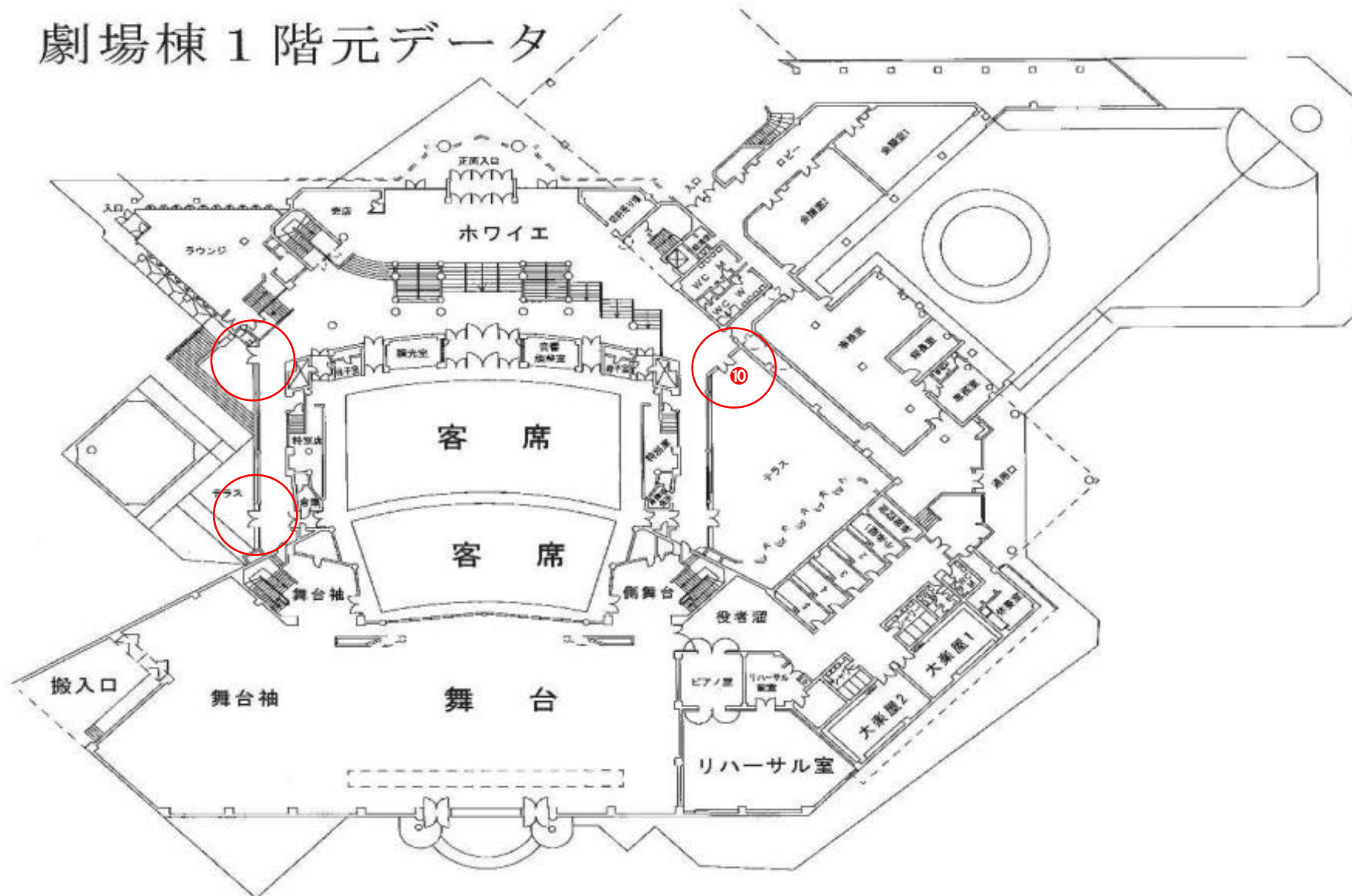




【#05】 劇場棟B 1階扉開閉不良（北池側/2カ所）扉取替等改修

【#06】 劇場棟B 中庭扉不良 扉取替等改修

劇場棟 1 階元データ



【#05】 劇場棟B 1階扉開閉不良（北池側/2カ所） 扉取替等改修

【#06】 劇場棟B 中庭扉不良 扉取替等改修



写真No.		日付	
施設名	劇場棟(上手)		
場所	非常出入口扉		
状況	扉本体ゆがみ・枠穴あき及び床面爆裂あり、外側コンクリート床沈下があるため、開閉不良です。		



写真No.		日付	
施設名	劇場棟(上手)		
場所	非常出入口扉		
状況	扉本体ゆがみ・枠穴あき及び床面爆裂あり、外側コンクリート床沈下があるため、開閉不良です。		





写真No.		日付	
施設名	劇場棟（下手）		
場所	中庭扉		
状況	扉本体ゆがみの為、開閉不良です		



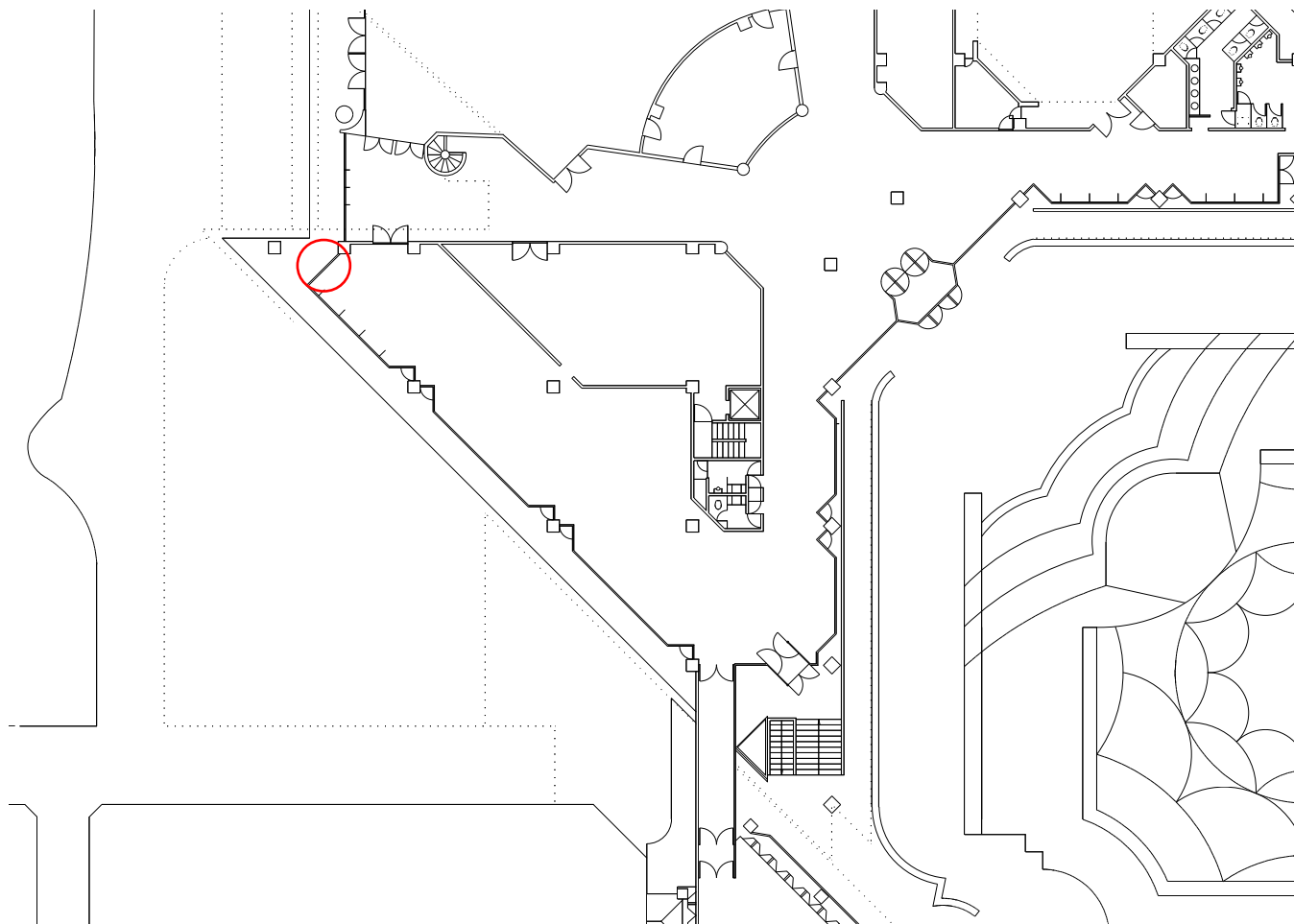
写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真		日付	
施設名			
場所			
状況			

【#07】 レストラン レストラン北側非常口扉不良 扉取替等改修

レストラン平面図



【#07】 レストラン レストラン北側非常口扉不良 扉取替等改修



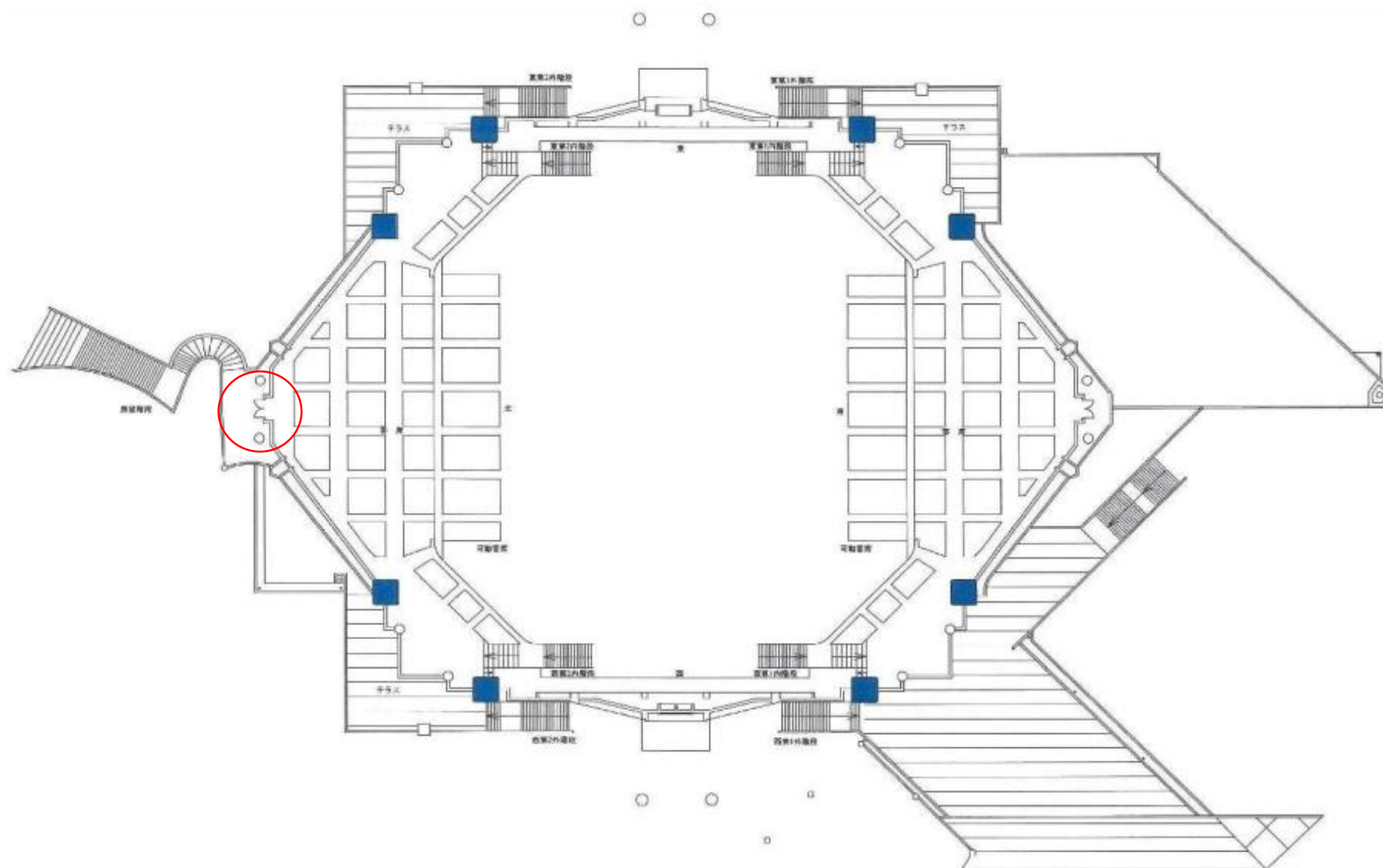
写真No.		日付	202 5年 8月 2 日
施設名	レストラン		
場所	階		
状況	レストラン客席北側からの非常口となっている建具（引戸）が経年劣化により枠レール等に干渉し開閉の不具合がある状況。早急な修繕が必要です。		

写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



【#08】 展示棟 2階客席北扉開閉不良 扉取替等改修

展示棟 2 階平面図



【#08】 展示棟 2階客席北扉開閉不良 扉取替等改修



写真No.		日付	
施設名	展示棟		
場所	2階客席扉		
状況	扉錆腐食の為、開閉不良です		



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況	ガラス窓に亀裂が入って危険な状態です		



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況			



写真No.		日付	
施設名			
場所			
状況	枠の腐食が進行しており枠ごと取替が必要です		